

世界が進むチカラになる。



経済調査

グラフで見る関西経済 (2025年3月)

2025年3月7日

調査部 主任研究員

塚田裕昭

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

今月の景気判断～持ち直しの動きがみられる

【今月のポイント】

- 関西経済は、持ち直しの動きがみられる
- 12月の生産は2ヵ月ぶりに前月比でプラス。電子部品・デバイス、汎用・生産用・業務用機械等が増加した。均してみると横ばい圏で推移している
- 1月の実質輸出は2ヵ月ぶりに減少。鉱物性燃料、一般機械、電気機器等が減少した。均してみると横ばい圏で推移している
- 12月の賃金指数(大阪)は、名目、実質とも前年比でプラスとなった。ボーナスの伸びが寄与したとみられる
- 小売販売額(1月)は、物価上昇もあって名目では前年比プラスが続いている。実質でも小幅ながら5ヵ月ぶりにプラスとなった

項目	現状
景気全般	持ち直しの動きがみられる
生産	横ばい圏で推移している
輸出	横ばい圏で推移している
設備投資	増加している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直している
個人消費	持ち直している
住宅投資	横ばい圏で推移している
公共投資	高めの水準となっている

生産

12月の鉱工業生産(関西)は前月比+0.1%と小幅ながら2ヵ月ぶりにプラスとなった。均してみると横ばい圏で推移している。電気機械、化学等が減少したが、電子部品・デバイス、汎用・生産用・業務用機械等が増加した。

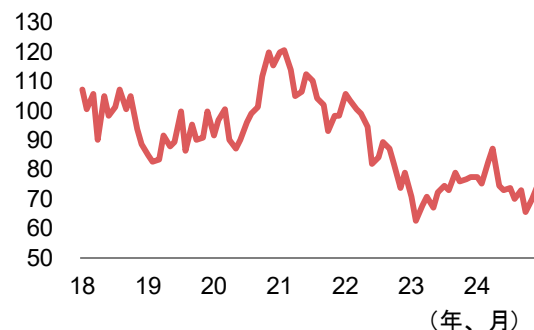
鉱工業生産指数

(2020年=100)



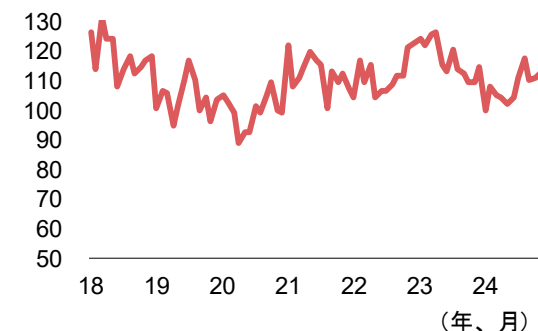
電子部品・デバイス

(2020年=100)



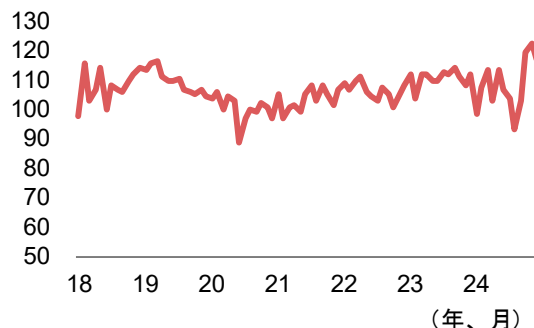
電気機械

(2020年=100)



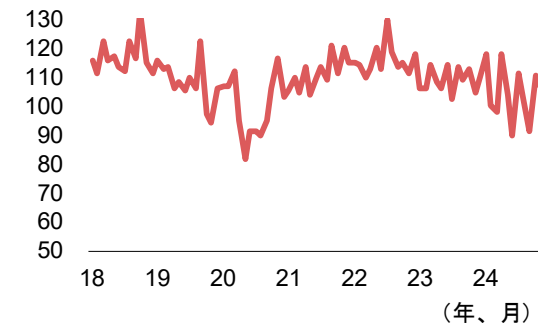
化学

(2020年=100)



汎用・生産用・業務用機械

(2020年=100)



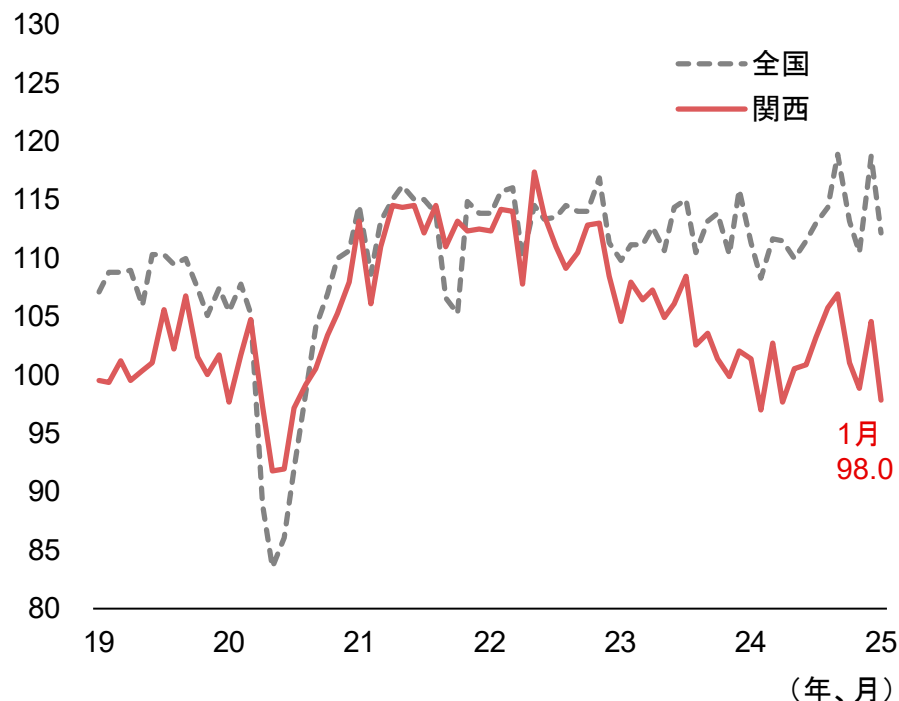
(出所)経済産業省「鉱工業生産動向」

輸出

1月の実質輸出(季節調整値)は、前月比-6.5%の98.0と2ヵ月ぶりに減少。均してみると横ばい圏で推移している。当社試算による1月の輸出数量(季節調整値)も2ヵ月ぶりに減少した。貿易統計で業種別の動き(名目値)をみると、鉱物性燃料、一般機械、電気機器等が減少した。

実質輸出指数(季節調整値)

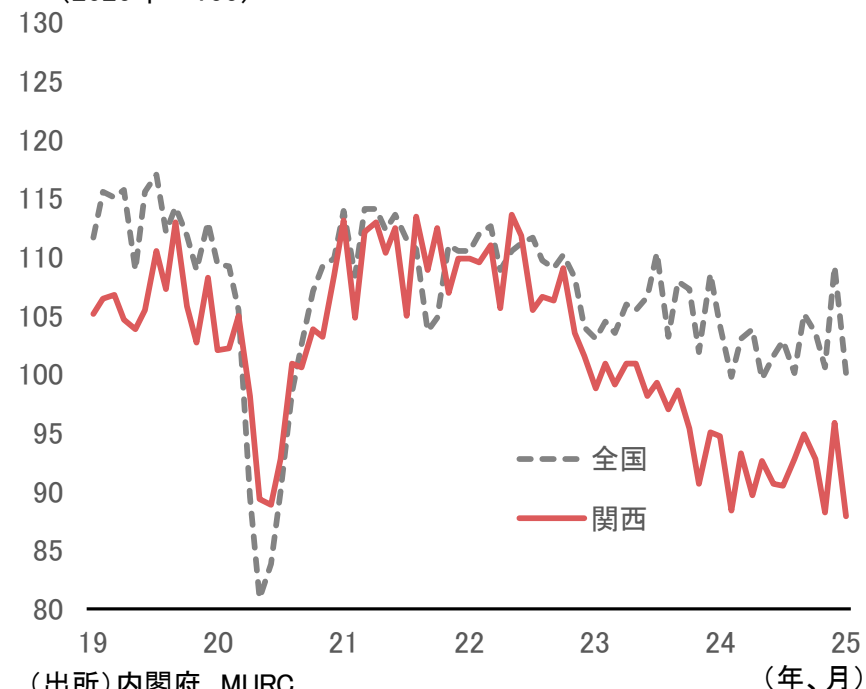
(2020年=100)



(出所) 日銀大阪支店「実質輸出入」

輸出数量指数(季節調整値)

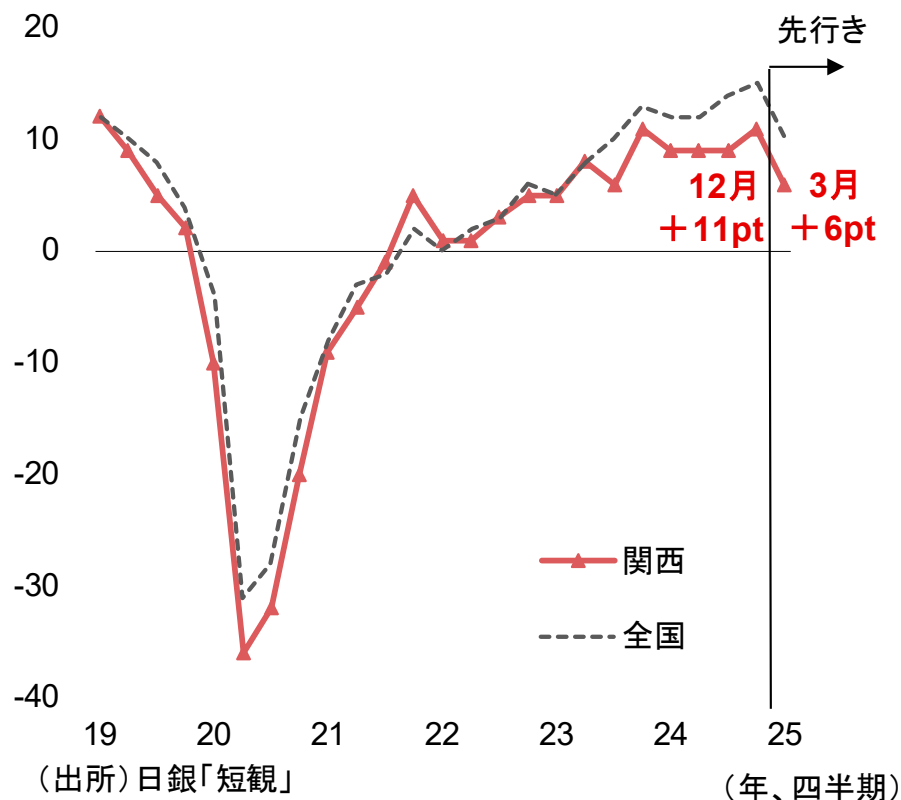
(2020年=100)



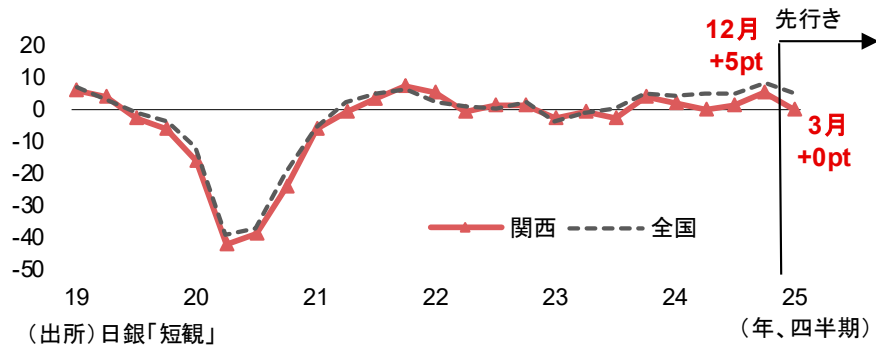
企業景況感(日銀短観) ※以下は12/13公表の12月調査。3月調査は4/1公表予定

日銀短観12月調査の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は、全産業で+11ptと9月調査から改善。製造業は+5ptと4pt上昇、非製造業は+18ptと1pt低下した。業種別に見ると、製造業では石油・石炭、はん用・生産用・業務用機械が高水準。非製造業は建設、不動産、物品賃貸、運輸・郵便などが高水準となっている。先行き(3月)については、製造業、非製造業ともに低下が見込まれている。

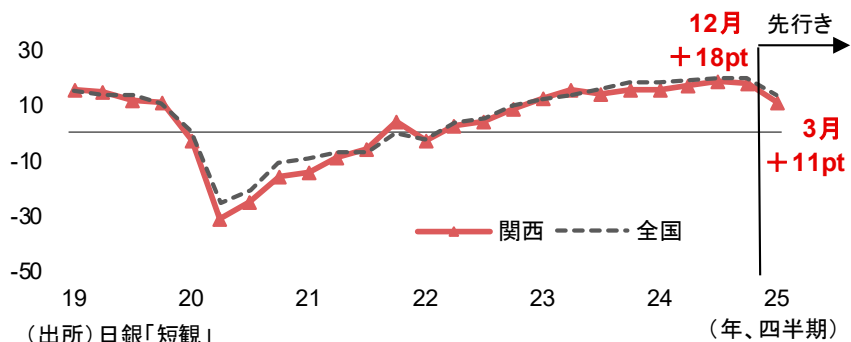
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



同 非製造業

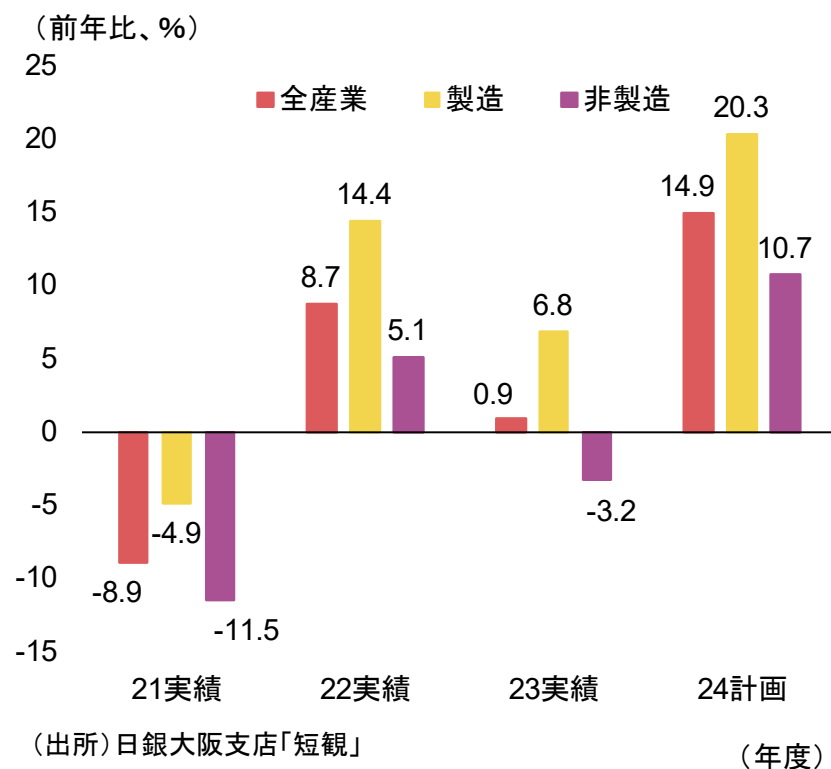


設備投資

※以下は12/13公表の12月調査。3月調査は4/1公表予定

日銀短観12月調査によると、24年度の設備投資は、前回9月調査から下方修正となったが、前年比＋14.9%と高い伸びが見込まれている。製造業では、はん用・生産用・業務用機械、金属製品等が、非製造業では、建設、宿泊・飲食サービス等が高い伸びを見込んでいる。

設備投資 実績・計画



設備投資額(前年比%)

	23年度 実績	24年度計画		
		今回調査	前回調査 との差異	前回調査
全産業	0.9	14.9	(-2.2)	17.1
製造業	6.8	20.3	(-3.6)	23.9
非製造業	-3.2	10.7	(-1.1)	11.8

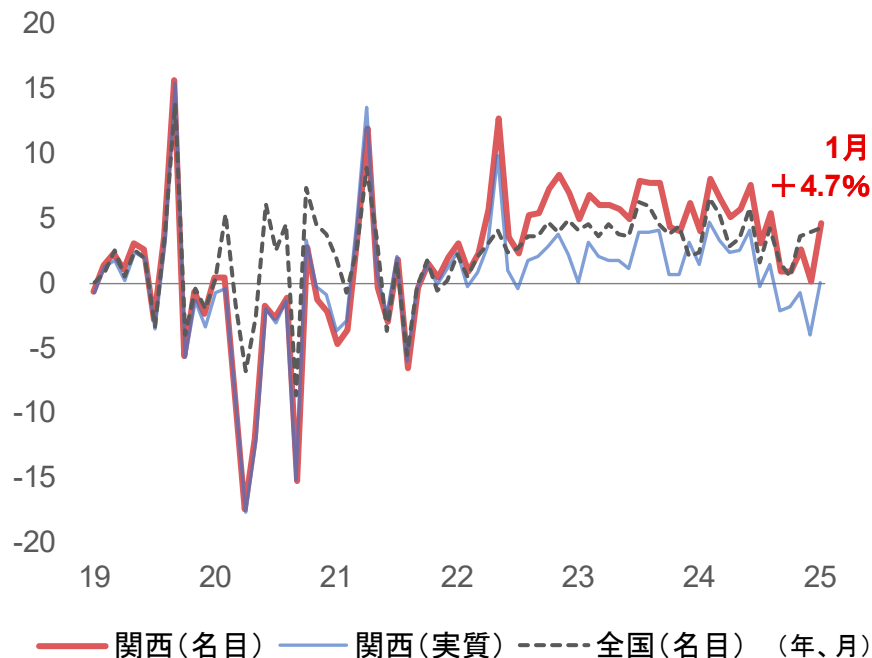
個人消費(小売売上、自動車販売)

1月の小売販売額(名目)は、前年比+4.7%とプラスとなり伸び率は拡大。実質値は前年比+0.1%と小幅ながら5ヵ月ぶりにプラスとなった。

1月の新車販売は、認証不正により前年が低水準であった反動もあって、前年比+16.7%と大幅増となった。

小売販売額(6業態計)

(前年比、%)

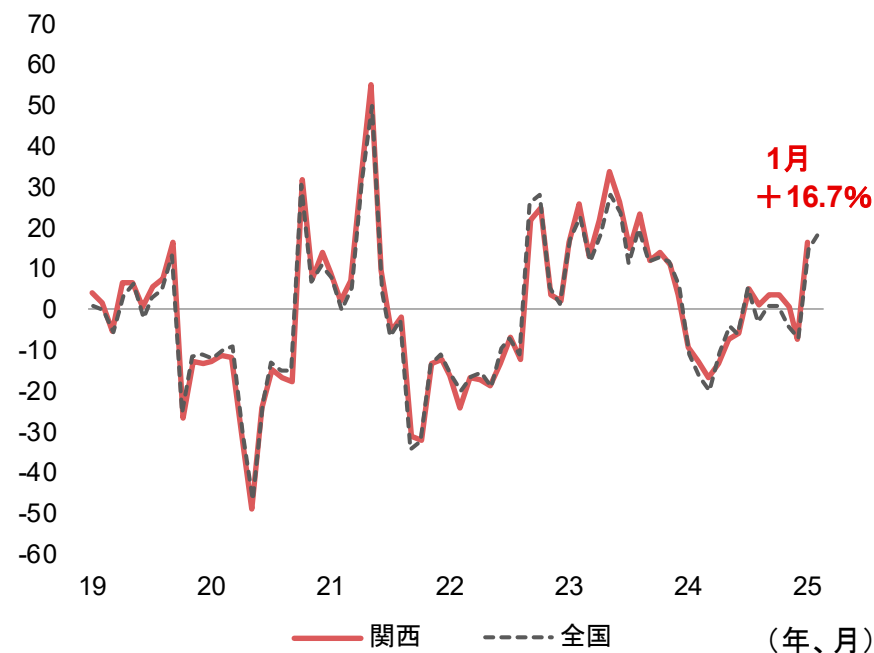


(出所)経済産業省「商業動態統計」からMURC試算

(注)百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計
「持家の帰属家賃を除く総合(関西)」で実質化

新車販売台数(含む軽)

(前年比%)

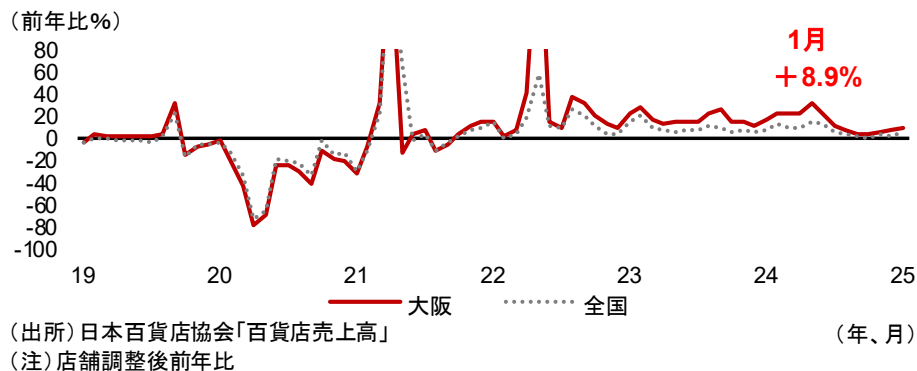


(出所)日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

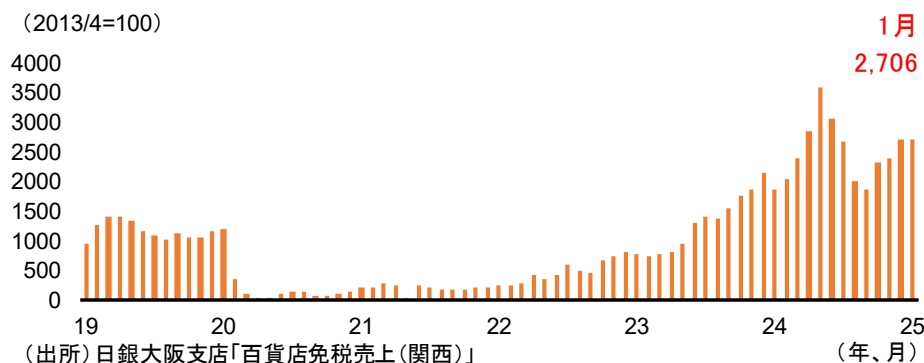
個人消費(業態別)

1月の百貨店売上(大阪)は、前年比+8.9%と40ヵ月連続でプラスとなった。1月の京阪神百貨店免税売上指数は前年比+46.5%増の2,706となった。

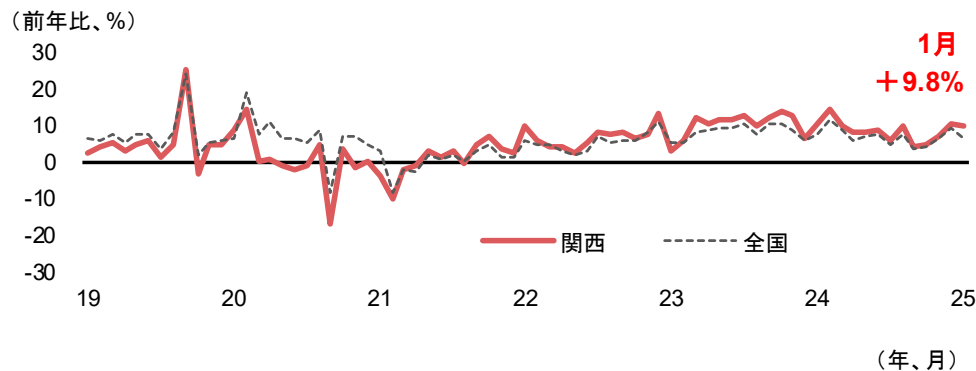
百貨店売上高



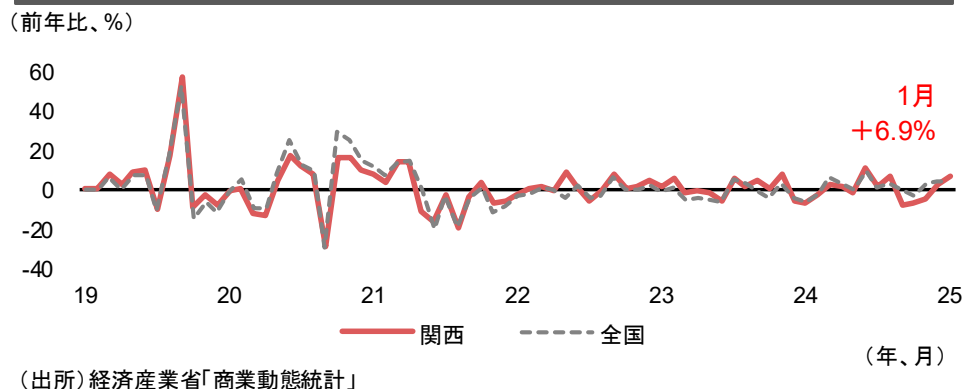
京阪神百貨店免税売上高



ドラッグストア販売額



家電大型販売店販売額

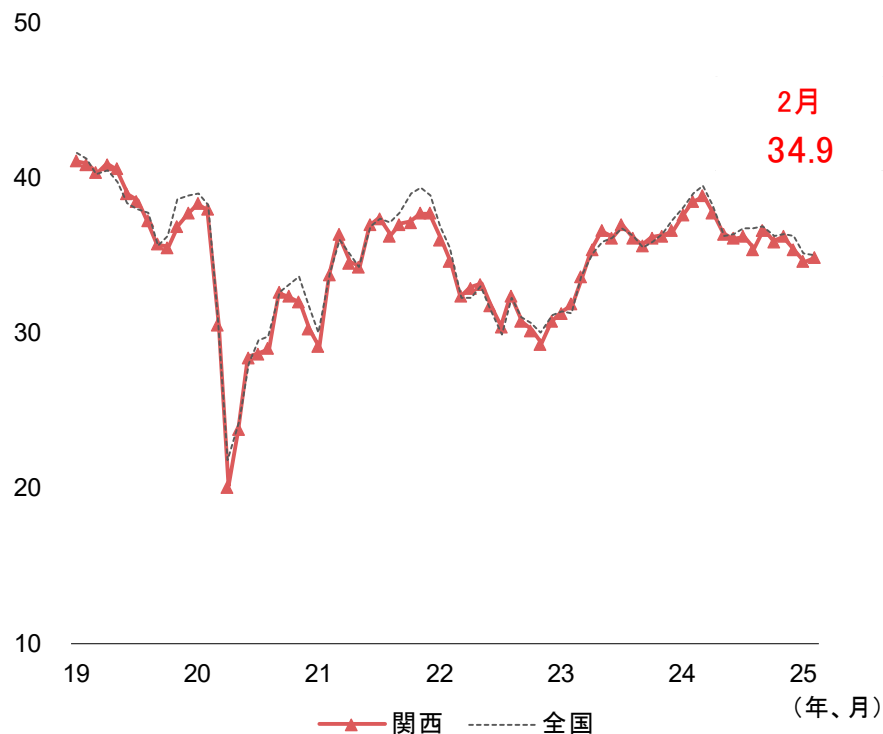


マインド・景況感

2月の消費者態度指数(季節調整値)は34.9と小幅ながら3ヵ月ぶりに上昇した。

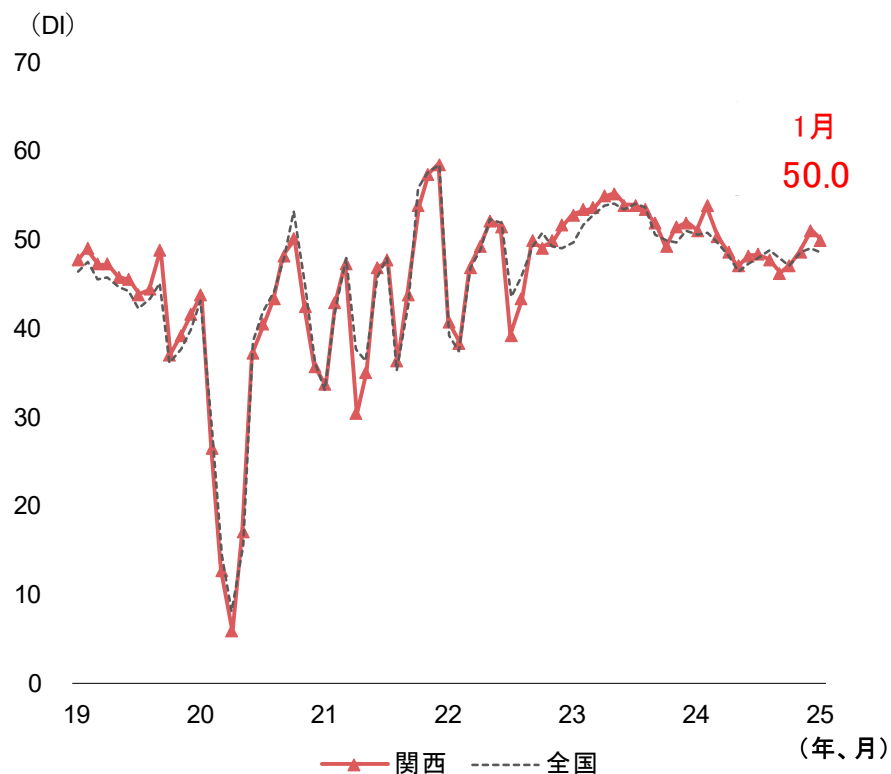
1月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は前月差1.1pt低下の50.0となった。インバウンドが増加する一方で、物価高による支出控えが景況感を引き下げた。

消費者態度指数



(注) 関西の季節調整値はMURC試算
(出所) 内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(現状判断)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

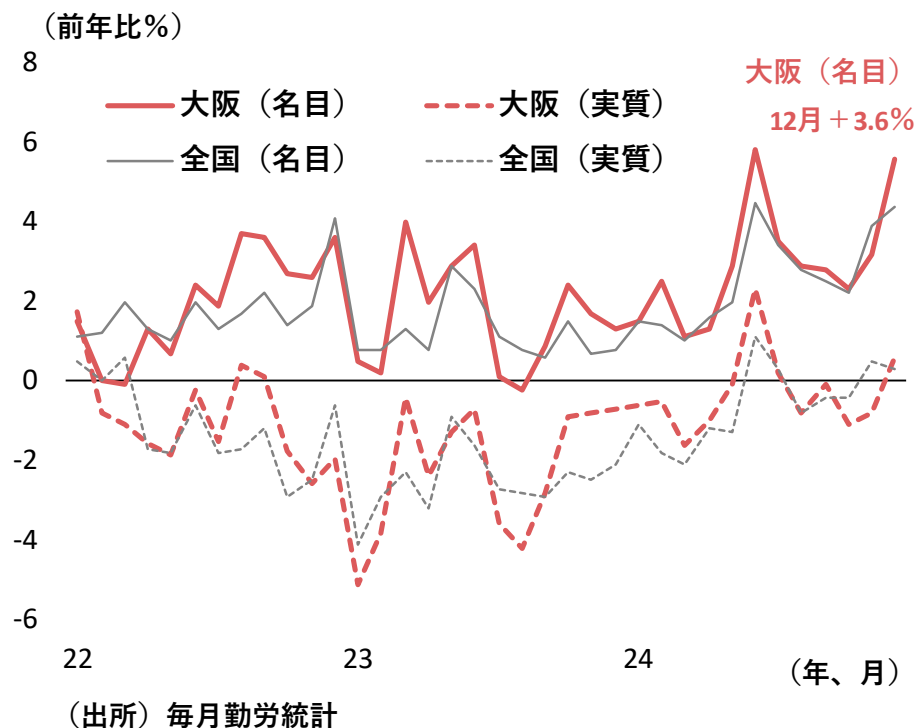
賃金・雇用

12月の大阪の名目賃金指数は、前年比+3.6%と前年比プラスが続いており、実質でも同+0.6%と5カ月ぶりにプラスとなった。ボーナスの伸びが寄与したとみられる。

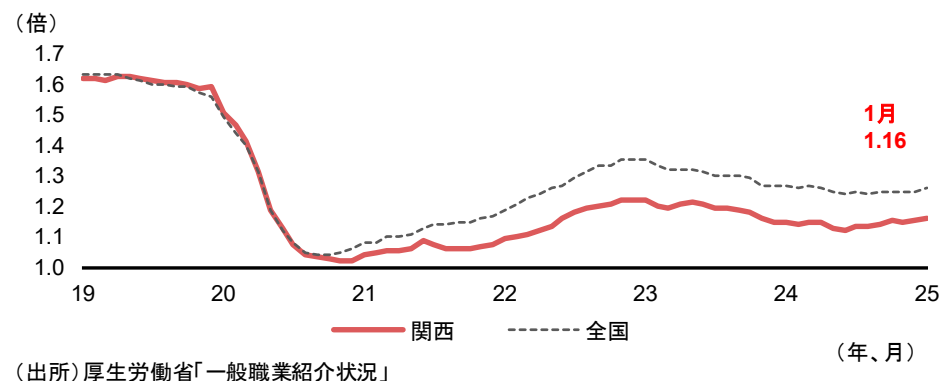
1月の有効求人倍率は1.16倍と前月とほぼ同水準。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。

24年10-12月期の失業率は2.8%と前期から小幅上昇、就業者数は減少した。

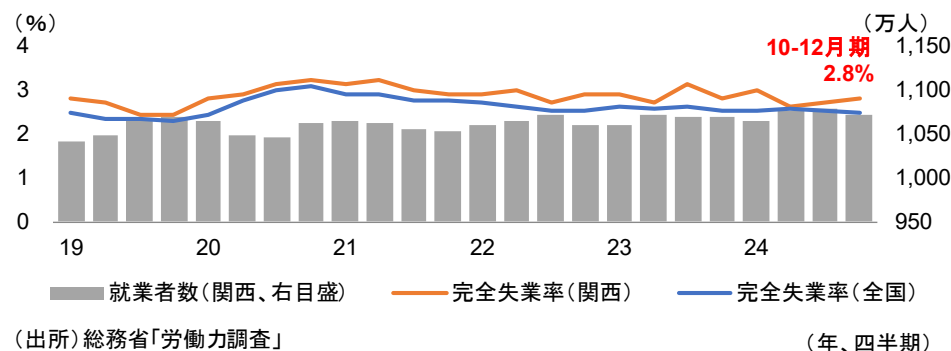
名目賃金指数



有効求人倍率(季節調整値)



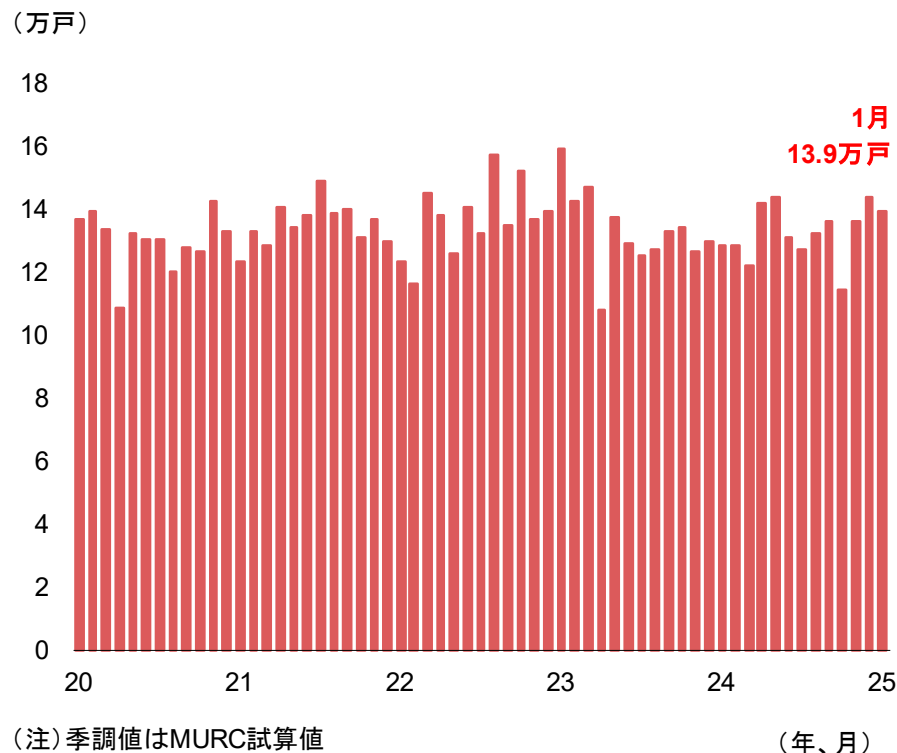
失業率と就業者数(季節調整値)



住宅投資

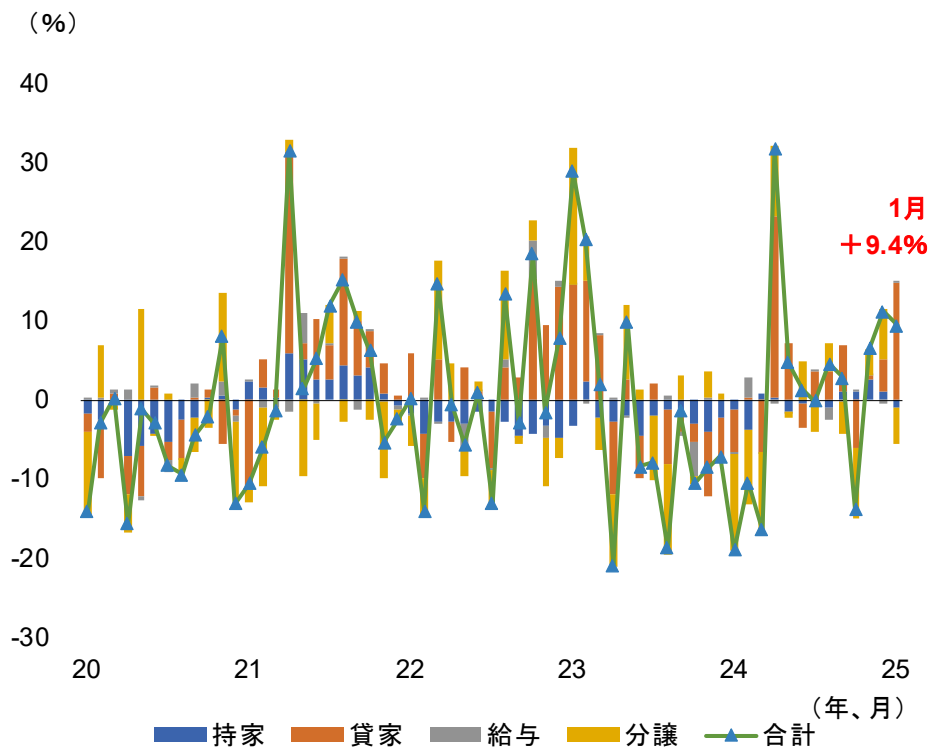
1月の住宅着工は、季調・年率13.9万戸と3ヵ月ぶりに前月比で減少した。前年比では、持家、分譲が減少したが、貸家が増加し、全体で+9.4%と3ヵ月連続で増加した。関西の住宅投資は、均してみると横ばい圏で推移している。

新設住宅着工戸数(季調済年率換算)



(注) 季調値はMURC試算値
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数(前年比)

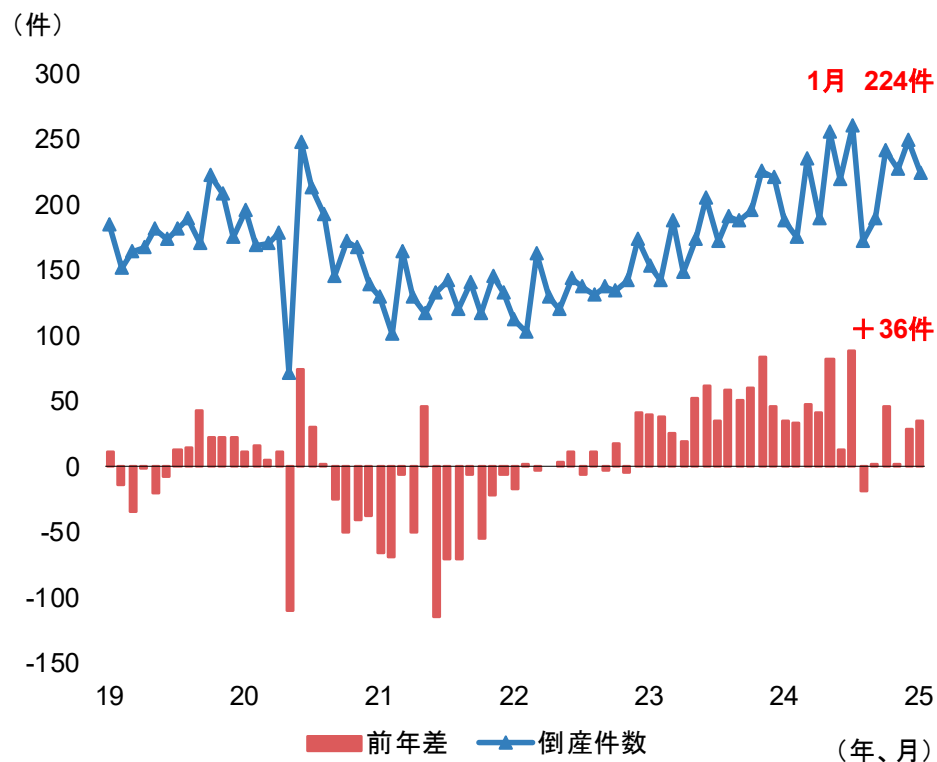


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

倒産

1月の倒産件数は224件と前年から36件増加。このところ高めの水準となっている。

倒産件数

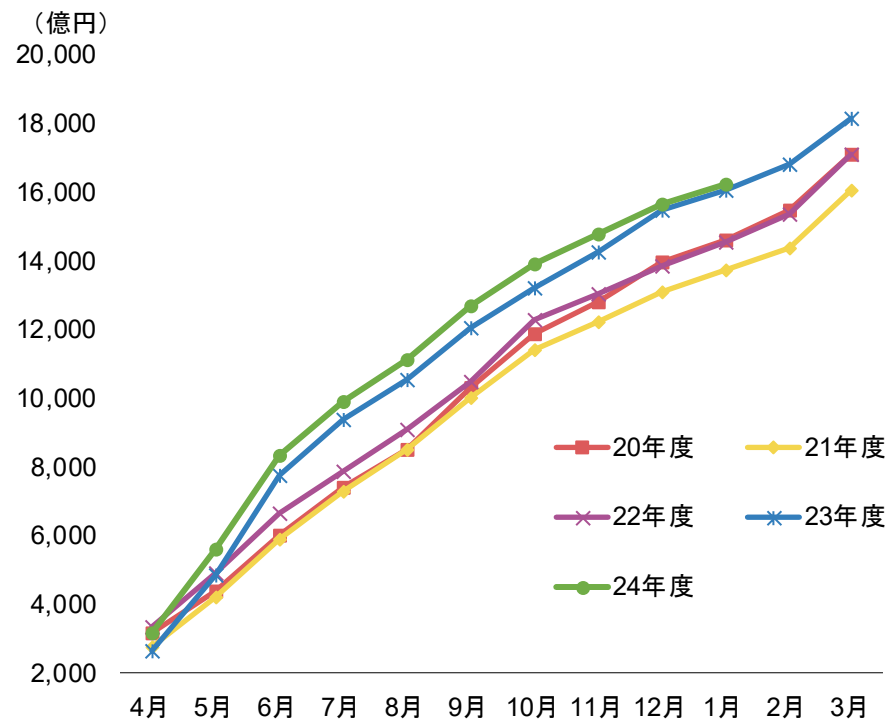


(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

1月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比+1.1%の1兆6,240億円と高めの水準となっている。

公共工事請負金額(年度累計)



(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー